

ジャパン・アドヴァタイザー

## 「神戸女学院特集号」について

真 多 ヨシエ

神戸女学院は一九三三年春期休暇中に神戸市山本通より岡田山現校舎に移転、翌一九三四年四月十八日に盛大な落成式を挙行した。前掲渡辺久雄先生の論文で紹介されている神戸女学院岡田山の新校舎建築に関する史料のうち二つは、この落成式に先立ち、当時日本の代表的英字新聞として知られていたジャパン・アドヴァタイザー(The Japan Advertiser) 紙が一九三四年二月十一日(日)号の附録として発行した、一〇ページにわたる神戸女学院特集号(Kobe College Special Edition)に掲載された記事の原稿であるが、この特集号が神戸女学院図書館に収蔵されているので、その概要を紹介したい。

なお、この特集号発行に関する事務的な往復文書、メモ、記事の原稿控(英文、英訳文、和文および若干の英文のオリジナル原稿等は、「デフォレスト文書」の一部として神戸女学院史料室に保管されている)。

ここで、簡単にジャパン・アドヴァタイザーについて述べると、同紙は一八九〇年十一月一日アメリカ人R・メイクルジョン(R. Meiklejohn)によって横浜で創刊された。やがて米国ユニテリアン宣教師A・M・クナップ(Arthur

May Knapp)の手に移ったが、更に一九〇九年B・W・フライシャー(B. W. Fleisher)に譲られた。フライシャーはそれまで横浜にあった本社を東京に移し、優秀な編集者を次々に迎えて、米国系英字紙としての声価を次第に高めていった。その後一九二三年九月一日の関東大震災による徹底的打撃、更に一九三〇年十一月四日の火災による全焼と再度の被災にもかかわらず、同紙はその国際的優秀性を認められて、一九三三年五月米国ミズーリ大学特別賞を受賞するに至った。ちなみに、この同じ五月に神戸女学院特集号発行についての交渉が始まっている。

このように同紙は日本における有数の英字紙に発展したが、一九三七年日中事変の勃発、拡大に伴い、遂に一九四〇年十月、日本人経営のジャパン・タイムズ(The Japan Times)に合併され、同年十月十日附でジャパン・タイムズ・アンド・アドヴァタイザー(The Japan Times and Advertiser)と改題発行された。ジャパン・タイムズは一八九二年三月二十二日、日本人によって東京で創刊され、一九二一年にジャパン・メール(The Japan Mail)、一九四〇年にジャパン・アドヴァタイザー及びジャパン・クロニクル(The Japan Chronicle)を合併吸収して、今日に至っている。

次に、東京で発行されていた代表的英字新聞の附録として、神戸女学院特集号が発行された経過を、史料室に保管されている文書によって辿り、その一部の内容要点を記しておく。

(1) 一九三三年五月三十日附

神戸女学院財務主管H・W・ハケット(Harold W. Hackett)よりジャパン・アドヴァタイザー神戸支社マネージャーH・W・ノートン(Howard W. Norton)宛。

○神戸女学院特集号の件については、資料収集の責任者であるクルー夫人(Mrs. Glenna K. Crew)と相談されたい。  
○クルー夫人の手許には貴社東京本社ホルト氏(C. L. Holt)と検討した特集号の内容、計画のメモあり。

(2) 一九三三年六月五日附 ハケットよりノートン宛。

○特集号発行に対する公式同意書を同封。

○広告掲載のため請負業者名を紹介する。

○ホルト氏の提案通り神戸女学院の経済的負担は特集号の特別購入に限定する。

○発行時期は来年早々、落成式及び三月の入学試験以前が適当。

(3) 一九三三年十月三日附

ジャパン・アドヴァタイザー東京本社営業局長C・L・ホルトよりハケット宛。

○広告掲載依頼状の見本に聖路加国際病院特集号<sup>②</sup>発行時の広告依頼状を同封。

○建築施工業者には全ページ広告(五〇〇円)の掲載を期待する。

○新校舎、学院の活動等について、あらゆる面の写真や記事を集めるのには相当長期間かかると思われるので、聖

路加国際病院特集号を参考に直ちに準備に着手されたい。

○同封の契約覚書に署名の上返送を乞う。

(4) 一九三三年十月三日附 ハケット、ホルト両者署名契約覚書。

○一九三四年初め本紙附録として発行される神戸女学院特集号三五〇〇部の代金として五〇〇円を、神戸女学院よ

りジャパン・アドヴァタイザー社に支払う。

○特集号は四〜八ページとし、ジャパン・アドヴァタイザーの全購読者に配布する。

○神戸女学院は前記三五〇〇部受領後直ちに五〇〇円全額を支払う。

(5) 一九三三年十月三十日附 ハケットよりホルト宛。

○十月三日附ホルト書簡への返信。

○契約覚書に署名、返送する。

○広告依頼状原稿を同封、これでよければ返送されたし。依頼状は当方より発送する。

○原稿は集まり次第送付する。

(6) 一九三三年十一月一日附　ホルトよりハケット宛。

○広告依頼状は訪問して直接手渡す方が効果が大きいので東京本社および神戸支社宛まとめて送付されたい。

○近日離日する為、次の日曜日に帰任するヤング氏 (James R. Young) に一切を引き継ぐ予定。

○全原稿の複写作成のこと。

○現在一応八ページを予定している。

(7) 一九三三年十一月二十四日附

ジャパン・アドヴァタイザ―東京本社営業局長 J・R・ヤングよりハケット宛。

○十一月二十三日附ハケット書簡(省略)への返信。

○広告依頼状は神戸支社で二六通、東京支社で一通受領。

○原稿は直接東京本社の私宛送付されたい。記事は本社で、広告は神戸支社で扱う。

(8) 一九三四年一月九日附　ヤングよりハケット宛。

○十二月二十九日附原稿受領。

○神戸女学院特集号はご期待に副えるものを発行できると信じている。

○発行日は何日が適当か。

(9) 一九三四年一月十八日附 ハケットよりヤング宛。

○原稿及び写真発送。

(10) 一九三四年一月三十一日附 ハケットよりヤング宛。

○特集号は二月十一日附本紙の附録として発行予定と福原氏より連絡を受ける。

○本日発送の原稿中には特に重要なものあり、一部削除の必要があれば当方に削除させてほしい。

○できるだけ削除しないで済むよう、一二ページにできる可能性はないか。

(11) 一九三四年二月三日より二月十三日までの間、ハケットとヤングの間に原稿・校正刷の授受、印刷上の問題点等につき往復書簡数通あり、特集号は一〇ページと決定。

(12) 一九三四年二月十七日附 ヤングよりハケット宛。

○訂正についての報告。

○一五二三部は指示の宛先に直送済、残り一九七七部は本日貴学宛発送。

○落成式当日の論説で紹介する件はご希望通り取り運ぶ予定。

(13) 一九三四年二月二十日附 ハケットよりヤング宛。

○特集号受領。

○特集号に対する賞讃の声非常に大きく、ご協力に感謝する。

○名誉院長 S・A・ソール博士 (Dr. Susan A. Searle) が落成式の為三月十一日横浜着の予定につき、ローカルニュースとして取材してほしい。

こうして発行された「神戸女学院特集号」は、第一面上段中央に岡田山キャンパス・新校舎の航空写真を掲げ、デフォレスト院長 (Dr. Charlotte B. DeForest) をはじめとする学院関係者・学生・同窓生による学院の歴史・教育方針・現況等の紹介、また、白根竹介兵庫県知事、建築の設計・施工にあたった W・M・ヴォーリス (William Merrell Vories) 竹中藤右衛門諸氏の所感等を収録、写真三四葉、広告四八件を収めて、縦五七センチ横四七センチ全二〇ページの体裁をとっている。なお、本誌巻末には全掲載記事の見出しを紹介しているのでご参照いただきたい。

#### 註

- ① ここに紹介したジャパン・アドヴァンタイザーに関する記事は主として神戸市立中央図書館所蔵『The Japan Times ものがり』(ジャパン・タイムズ社、昭和四十一年刊)を参考にした。ここに記して感謝する。
- ② 聖路加国際病院特集号 (Special St. Luke's Hospital Supplement, Pictures and News of St. Luke's, Tokyo.) は一九三三年六月七日(水)発行。全二二ページ。史料室所蔵。